

室内ドア①

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり
- 有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

●本製品は薄壁用は壁厚(111~141mm)、厚壁用は壁厚(142~170mm)に取付けられます。

■施工される方へのお願

- 本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。
- ▲注意 …取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険および物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみ等は、本体脱落の原因になります。調整後、本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっている事を確認してください。
- 扉を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体脱落の原因になります。

■施工上のお願

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振り等で水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみ等の原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。

- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ず隙間をつくり、かい木を入れてください。かい木には、合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 沓摺り部の納め方に応じて縦枠を切断してください。

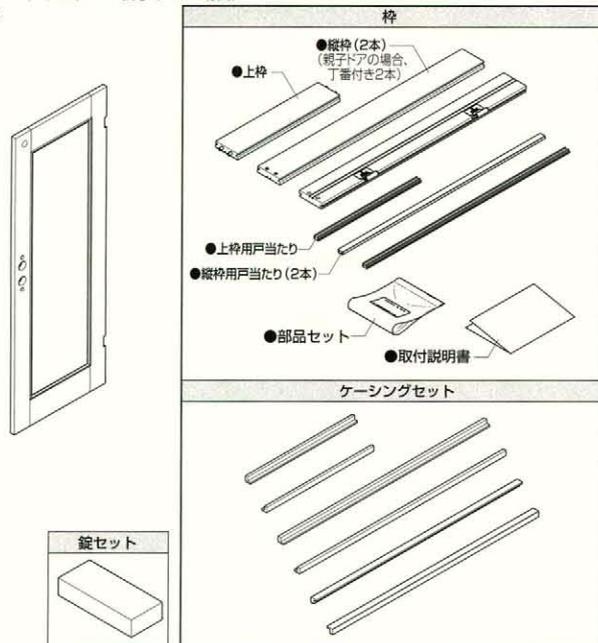
- ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っている事を確認してください。
- 建築工事中は、ドア本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをお勧めします。

■縦枠の切断

平薄沓摺り	切断不要
平薄沓摺り+下枠調整材	
埋込沓摺り	切断(12mm)
沓摺りなし	

■部品・部材の明細

(標準ドア・トイレドア・親子ドアの場合)
ドア本体



■枠セット明細

	標準ドア	トイレドア	親子ドア
縦枠	2	2	2
上枠	1	1	1
戸当たり	縦2・上1	縦2・上1	縦2・上1
枠定規	2	2	2

■ケーシングセット明細

上用ケーシング	2
取用ケーシング	4

■丁番セット

丁番	2
本体取付けねじ(皿タッピンねじφ4×20)	8

■錠セット

ハンドルセット	1組
台座セット	1組
台座取付けねじ(φ4×30)	1
ハンドル固定ねじ(φ4×16)	1

■部品セット

標準ドア・トイレドア用	
ノックピン	4
トラスタッピンねじ φ4×55	23

■親子ドア用

ノックピン	4
トラスタッピンねじ φ4×55	23
フランス落とし受け	1
皿木ねじ φ3.5×13	2

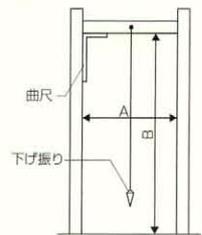
※戸当たりストッパーセットは別売りです。

■開口部の作り方

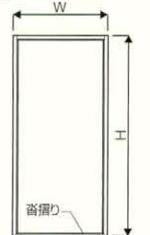
※開口部の水平・垂直を正しくしてください。

開口寸法A	製品寸法W+5mm
開口寸法B	製品寸法H+10mm

●開口寸法



●製品寸法

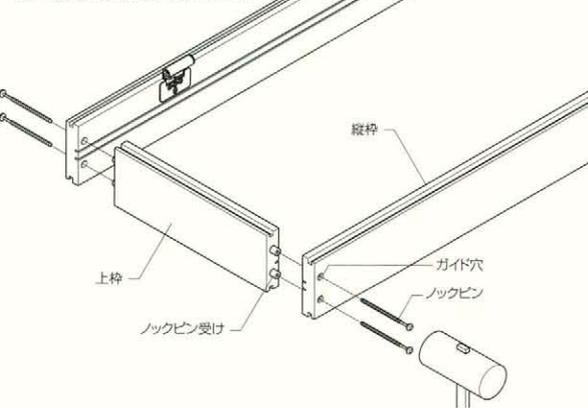


■取付け順序

1 枠の組立て

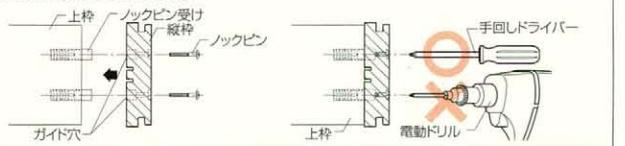
【沓摺りを取付ける場合、及び縦枠を切断する場合】

※トイレドアには、下枠調整材を使用する、しないでDHが2種類あります。



- ①上枠のノックピン受け(取付け済み)を、縦枠のガイド穴にはめ込みます。
- ②枠を仮組みした後、ノックピンをまっすぐたたき込みます。
- ③手回しドライバーで増し締め(1~2回転まで)します。

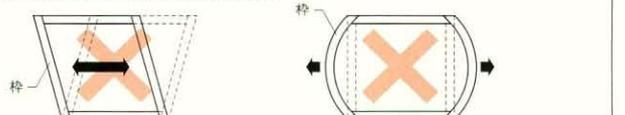
※電動ドリルは使用しないでください。



■お願い

- 枠の組立てを何度もくり返さないでください。ガイド穴が大きくなり、保持力を低下させます。
- ガイド穴にゴミ等が入らないよう注意してください。
- 枠組立て後、揺らす・引張る等の無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- ノックピン以外は使用しないでください。割れ・保持力低下等の原因になります。

※ガイド穴はバカ穴のため、多少の調整ができます。



(床先張り(枠後付け)の場合)

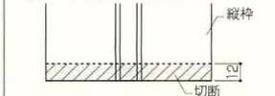
※埋込沓摺りセット(別売り)を使用してください。

【埋込沓摺り】

●埋込沓摺り

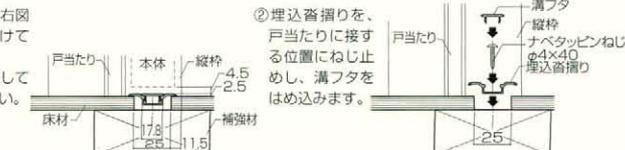


※縦枠(斜線部)を切断してください。



①補強材を必ず入れ、右図の位置に25mmあけて床材を張ります。

※躯体に縦枠を仮止めて位置出ししてください。



②埋込沓摺りを、戸当たりに接する位置にねじ止めし、溝フタをはめ込みます。

【床後張り(枠先付け)の場合】

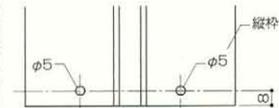
※薄沓摺りセット(別売り)を使用してください。 ■標準・親子ドア・下枠調整材を使用しないトイレドアの場合

【薄沓摺り】
●平薄沓摺り



【A部詳細図】

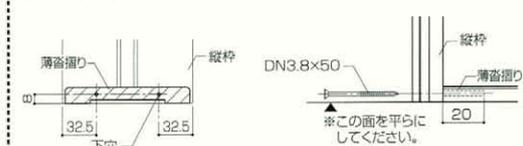
※縦枠を切断せずに下穴をあけてください。



- ①縦枠の下端にφ5、薄沓摺りにφ3.0~φ3.2、深さ20mm以上の取付け用下穴をあけます。
- ②薄沓摺りを枠に組合わせます。
- ③組合わせ面が水平になるよう調整した後、縦枠側からDN3.8×50(φ3.8×50)で薄沓摺りを固定します。

【A部詳細図】

●ケーシングタイプ

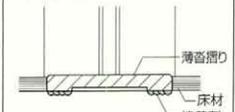


※下地材を付ける場合にも、縦枠と薄沓摺りの下面を合わせてください。

■躯体への取付け方

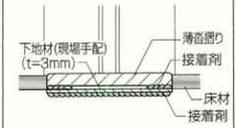
●床材厚さ12mm

※必ず薄沓摺りに接着剤を付け、躯体に固定してください。



●床材厚さ15mm

※必ず薄沓摺りと下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



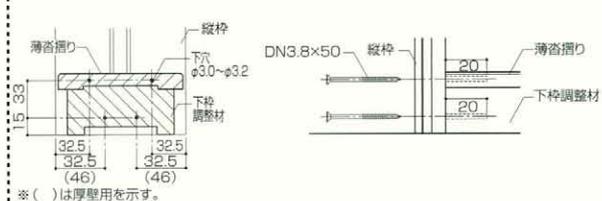
■トイレドア(下枠調整材を使用する場合)

※トイレ用沓摺りセット(別売り)を使用してください。

- ①縦枠の下端にφ5、薄沓摺り・下枠調整材にφ3.0~φ3.2、深さ20mm以上の取付け用下穴をあけます。
- ②薄沓摺り・下枠調整材を枠に組合わせます。
- ③組合わせ面が水平になるよう調整した後、縦枠側からDN3.8×50(φ3.8×50)で固定します。

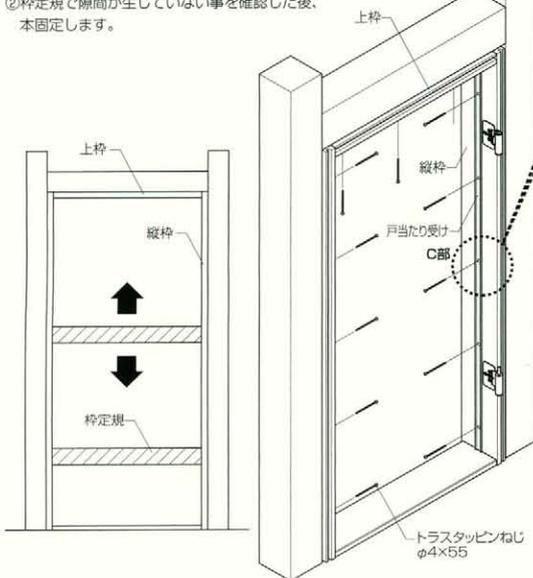
【B部詳細図】

●ケーシングタイプ

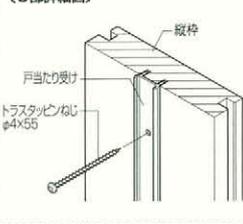


②枠の取付け

- ①枠を戸当たり受けの下穴から開口部に固定します。
- ※床先張り(枠後付け)の場合は、上枠・縦枠のみ固定します。
- ②枠定規で隙間が生じていない事を確認した後、本固定します。

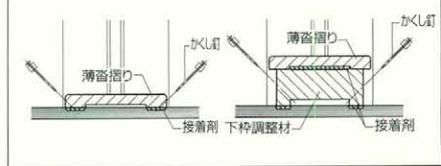


【C部詳細図】



【床後張り(枠先付け)の場合】

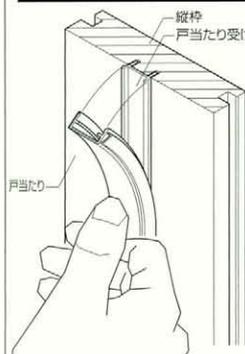
●薄沓摺り・(下枠調整材)は接着剤を塗布し、かくし釘等で固定します。



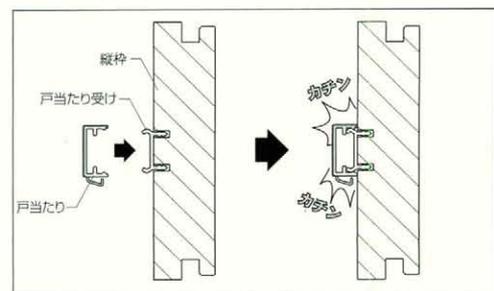
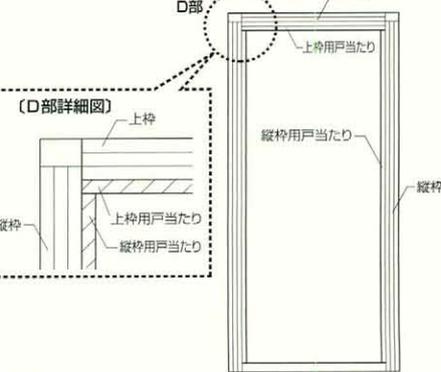
③戸当たりの取付け

- ①現場で戸当たりの寸法を合わせます。
 - ②下端から戸当たり受けに、「カチン」と音がするまでしっかりとめ込みます。手で押込めば、簡単にはまります。
- ※戸当たりは、埋込沓摺りより先に取付けてください。
- ※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。
- ※埋込沓摺り以外の沓摺りを使用する場合は、縦枠用戸当たりを現場に合わせて切詰めてから取付けてください。

お願い
ハンマーなどで直接たたき込まないでください。



【D部詳細図】



**商品特長
商品一覧**

室内ドア
室内引戸
可動 間仕切り
クローゼット ドア
玄関収納
造作材 (DS窓枠)
造作材 (定尺材)
腰壁
収納
手すり

規格表

室内ドア
室内引戸
可動 間仕切り
クローゼット ドア
玄関収納
造作材 (DS窓枠)
造作材 (定尺材)
腰壁
収納
手すり
有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

室内ドア②

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり
- 有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

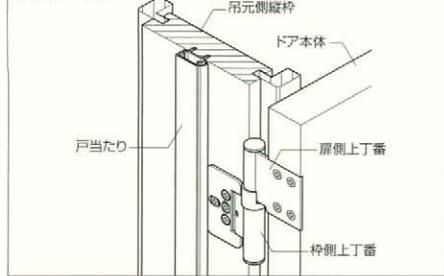
用語解説
索引

④ ドア本体の取付け

※建築工事中は、ドア本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをお願いします。

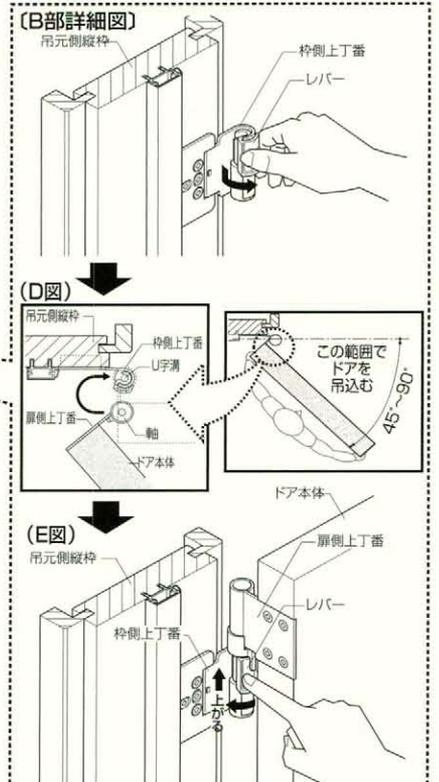
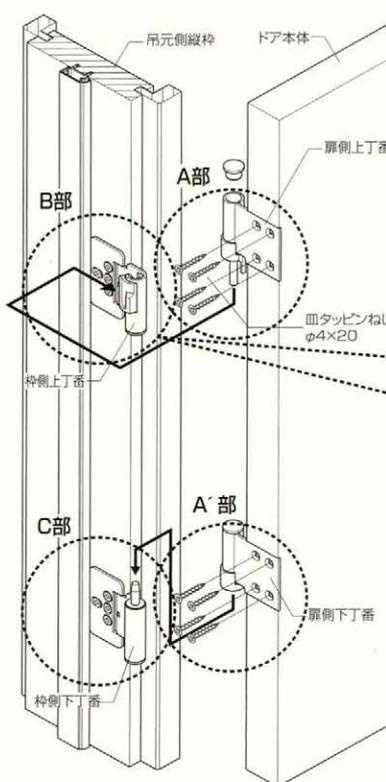
- ① ドア本体に扉側丁番を皿タッピンねじφ4×20で取付けます。(A・A'部)
- ※ドア本体は左右兼用です。取付けの際は、ドア本体の上下を確認してください。
- ② 枠側上丁番のレバーを下げながら回します。(B部)
- ※レバーが動かなくなるまでしっかりと回してください。
- ③ 扉側下丁番を、枠側下丁番に差込みます。(C部)
- ④ ドア本体の開き角度が、45°~90°の範囲で扉側上丁番の軸を枠側上丁番のU字溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。(D図)
- ⑤ 手でレバーを回して確実に閉めます。(E図)
- ※確実に閉まると、レバーが枠側上丁番の上端まで上がります。
- ※扉を吊込んだ後、レバーが上がっていることを確認してください。
- ⑥ ドア本体の上下・左右のチリ寸法を確認して調整します。

■取付け完成図



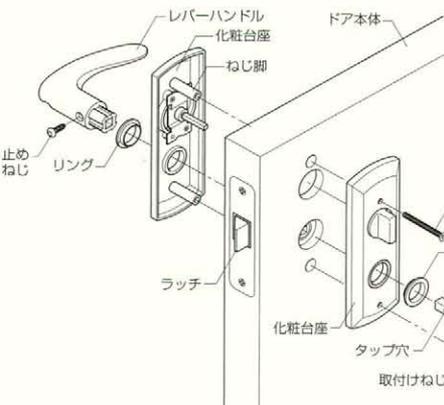
▲注意

- 丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみ等は、本体脱落の原因になります。調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっている事を確認してください。
- 扉を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体が脱落するおそれがあります。



⑤ 把手の取付け

- ① 化粧台座を室内・外から組合わせ、ねじで仮止めします。
- ② レバーハンドルを両側から差込み、レバーハンドルが軽く回転することを確認した後、化粧台座をねじで本締めします。
- ③ レバーハンドルをねじで固定します。
- ※把手の取付けは必ず手回しドライバーを使用してください。
- ※電動ドリルは使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



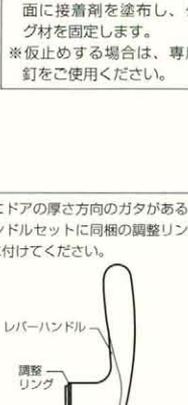
⑥ ケーシング材の取付け

- ※箱錠のラッチは、右吊元の向きになっています。左吊元として使用する場合は、フロントを外し、ラッチを回転させた後、フロントを付け直してください。
- ※壁材・床材を仕上げたからケーシング材を取付けてください。
 - ① 別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
 - ② 枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
 - ③ ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤を塗布し、ケーシング材を固定します。
 - ※仮止めする場合は、専用かかし釘をご使用ください。



⑦ 戸当たりストッパーの取付け

- 床取付け用(別売り)
- ※この戸当たりストッパーは、床付け・壁付け兼用タイプです。
- 【本体取付け用戸当たりストッパー及び、キャッチの取付け範囲】
- ※下図の斜線範囲内に戸当たりストッパー本体又は、キャッチを取付けてください。
- ※壁付け、床付け戸当たりは、キャッチの位置に合わせ、壁又は床に取付けてください。



⑧ フランス落とし受けの取付け

- ① 下図に従い床面を加工します。
- ② フランス落とし受けを床面にはめ込み、木ねじで取付けます。
- ※専用の番指りを使用する場合は、フランス落とし受けは取付け済みです。



商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり
- 有償部品

特注対応品

ガラス寸法

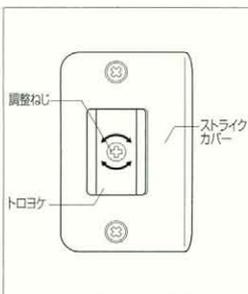
基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

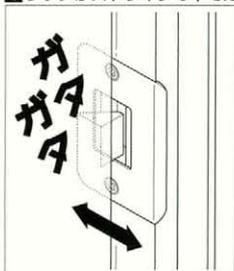
発注書

用語解説
索引

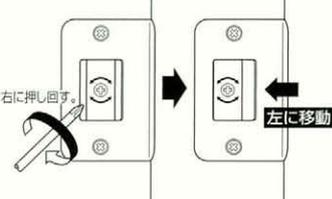
■建付け調整 (ストライクによる調整)



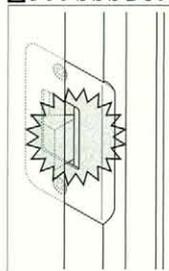
1 ラッチがストライクの中でガタつく



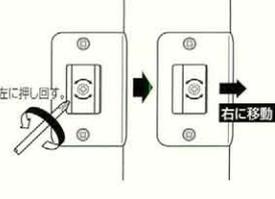
●調整ねじを押ししながら、右に回してください。
無段階で移動します。



2 ラッチがかからない



●調整ねじを押ししながら、左に回してください。



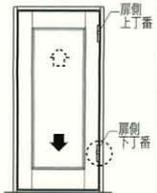
■建付け調整 (丁番による調整)

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
※本製品は、ドアを閉め、建付け状態を目で確認しながら調整できます。
※電動ドリルは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



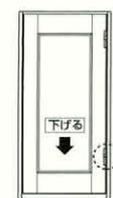
上下の調整

- 扉側下丁番を調整します。
- 調整幅は、上(3mm)、下(2mm)です。



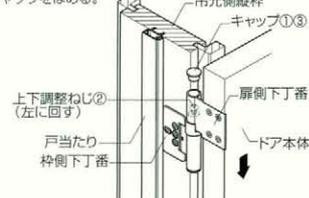
不具合例

1. ドアの上部が枠に当たる。



調整方法

①扉側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを左に回してドアを下げて位置を決める。
③キャップをはめる。



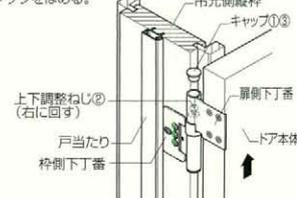
不具合例

2. ドアの下部が枠に当たる。



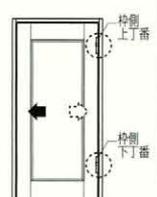
調整方法

①扉側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを右に回してドアを上げて位置を決める。
③キャップをはめる。



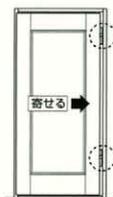
左右の調整

- 枠側上丁番及び枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.5mm、開き側に2.5mmです。



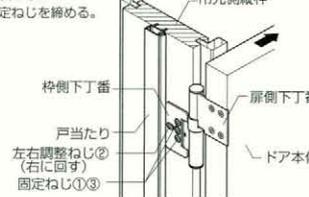
不具合例

1. ドアの開き側が枠に当たる。



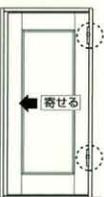
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



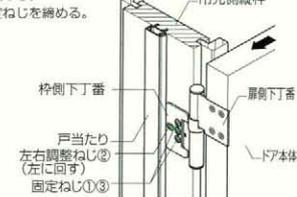
不具合例

2. ドアの開き側の隙間が大きすぎる。



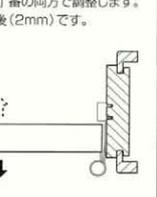
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



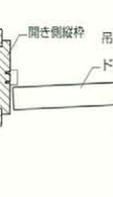
前後の調整

- 枠側上丁番及び枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、前(2mm)、後(2mm)です。



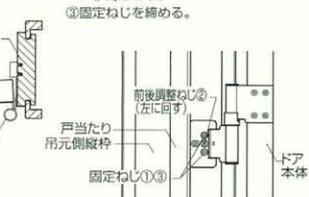
不具合例

1. 開き側の枠が前に出ている。



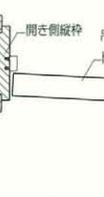
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
③固定ねじを締める。



不具合例

2. 吊元側の枠が前に出ている。



調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
③固定ねじを締める。

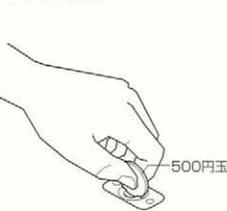


■子扉のガタつき調整 (フランス落とし受けによる調整)

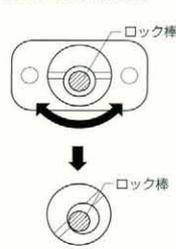


1 子扉がガタつく

①コイン等で穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。



【フランス落とし受け】



▲注意
●丁番固定ねじの締め忘れ・ゆるみ等は、本体脱落の原因になります。調整後、本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっている事を確認してください。

■お願い

- ※調整完了後、ドア本体を開閉して下記事項を点検してください。(異常があった場合、再度調整してください。)
- 戸当たりと枠の間に隙間がなく、戸当たり受けに安全にはまっているか。
- 枠側上丁番のレバーが上まで上がっているか。
- ドア本体が、枠にぶつからないか。
- ドア本体のラッチが、ストライクから外れないか。
- ドア本体のラッチが、ストライクの中でガタつかないか。